

令和 7 年 2 月 2 8 日	病 害 虫 発 生 予 報 3 月 号	茨城県病虫害防除所
---------------------	------------------------	-----------

農薬は、専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう。

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
イチゴ：ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：うどんこ病・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
促成トマト：黄化葉巻病（タバココナジラミ）・・・・・・・・・・	3
促成キュウリ：べと病・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
○サツマイモ基腐病の防除対策（育苗期～植付期）・・・・・・・・・・	4
【その他の病虫害】	
イチゴ、促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ、春ハクサイ、春レタス・・・・・・・・	5
II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」（ https://pesticide.maff.go.jp/ ）で確認することができます。	
詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。Tel：0299-45-8200 ホームページでは病虫害・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。 https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/ ※病虫害の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病虫害の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病虫害防除所等の指導機関にお問い合わせください。	



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生葉率（本年値 36.1%、平年値 17.4%）は平年より高く、発生地点率（本年値 70%、平年値 59%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
③ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。
④ 天敵導入圃場では、ハダニ類の生息状況等をよく観察し、必要に応じて天敵の追加放飼を検討する。

（令和6年12月2日発表 病害虫速報 No. 11 参照）

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生花率（本年値 3.4%、過去8年平均値 1.3%）は平年よりやや高い～高く、発生地点率（本年値 80%、過去8年平均値 16%）は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、花をよく観察し、発生の少ないうちに防除を徹底する。
② 青色粘着トラップを10aあたり100～400枚設置すると密度低減に有効である。
③ 薬剤散布は、アザミウマ類の寄生部位である花にかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

（令和7年2月28日発表 病害虫速報 No. 13 参照）

(イチゴ 続き)

3. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生葉率（本年値 0.9%、平年値 0.6%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 20%、平年値 20%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アブラムシ類は増殖が速く、多発すると葉や果実にすす症状を生じるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病度※（本年値 5.8、平年値 2.0）は平年よりやや高い～高く、発生地点率（本年値 75%、平年値 45%）は平年よりやや高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用している場合は、影響が小さい薬剤を選択する。

促成トマト

1. 黄化葉巻病（タバココナジラミ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病株率（本年値 1.6%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 56%、平年値 3%）ともに平年より高い。
- ② 2月下旬現在、一部圃場においてタバココナジラミ成虫の発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。
- ② 媒介虫であるタバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ③ 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。
- ④ タバココナジラミは多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、タバココナジラミの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑥ 黄化葉巻病耐病性品種は、ウイルスに感染しても発病は抑制されるが、感染株は本病の伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。
- ⑦ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

（令和 7 年 2 月 4 日発表 病害虫速報 No. 12 参照）

促成キュウリ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病葉率（本年値 3.3%、平年値 2.1%）、発生地点率（本年値 36%、平年値 20%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。また、収穫終期は株の勢いが衰え、発生が増加する傾向にあるため草勢の維持に努める。
- ② 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用している場合は、影響が小さい薬剤を選択する。

サツマイモ基腐病の防除対策（育苗期～植付期）

1. 育苗期～植付期

（1）育苗にあたっての注意

- ・ 苗の増殖は、ウイルスフリー苗を用い、土壌消毒を行った圃場で行う。
- ・ 来歴が不明な種イモや切苗は絶対に使用しない。
- ・ 多発生地域からは、種イモや切苗を持ち込まない。
- ・ 生産者間で種イモや切苗の譲渡等を行わない。
- ・ 苗床に本病の発生が確認された場合は、速やかに関係機関へ連絡し関係機関の指導の下、発病株を施設外に持ち出し、適切に処分する。

（2）作業にあたっての注意

- ・ 発生地域と行き来のあったコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、残さや土を圃場に持ち込まない。
- ・ 作業する圃場ごとに、農機具や長靴等についた土は良く落とし、水で良く洗浄する。
- ・ 植付前に、圃場内に残った作物残渣の分解及び排水管理を行っておく。

（3）健全苗を確保するために

①苗床・育苗準備時の対応

- ・ 種イモから苗を増殖する場合は、病害等が発生していない圃場で生産されたイモを選別して用いる。伏せ込む前の種イモは消毒を行う。

②採苗時の対応

- ・ 採苗時のハサミはこまめに消毒を行う。苗は地際から5 cm以上の位置で切る。
- ・ 採苗した苗は、採苗後速やかに苗消毒を行う。
- ・ 苗消毒用の薬液は、使用当日に調製し、登録の内容に従って浸漬処理を行う。

③購入苗への対応

- ・ 切苗を購入する時は、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合は購入後に必ず苗消毒を行う。

2. 侵入に備えた対策

- ・ 排水の悪い圃場は、本病が侵入した際、発病しやすい傾向があるため、明きょ設置や耕盤破碎、枕畝の途中に排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。
- ・ 圃場ごとに植え付けた苗の苗床の場所や採苗日、ウイルスフリー苗などの購入先を記録する。

※本病が疑われる症状を見つけた場合は、速やかに各地域の農業改良普及センターまでご連絡ください。

茨城県総合防除計画におけるサツマイモ基腐病の遵守事項

茨城県では、全国的に発生しているサツマイモ基腐病について、すべての農業者（家庭菜園を含む）の皆様にご守っていただくルール（遵守事項）を定めました（令和5年4月1日に施行された改正植物防疫法に基づくものです）。

○遵守すべき事項

- ・ 県が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・ 本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、圃場（苗床を含む）外に持ち出す。
- ・ 本病発生圃場では、2年間、サツマイモを作付けしない（関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く）。
- ・ 本病発生圃場から種イモを採取しない。
- ・ 本病発生圃場では、発生の拡大が無いことを確認する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
促成ピーマン	黄化えそ病	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。発病株はただちに抜き取り、適切に処分する。媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底する。
	斑点病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
促成トマト	黄化病	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。媒介虫であるコナジラミ類の防除を徹底する。
	灰色かび病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
促成キュウリ	退緑黄化病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
	黄化えそ病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。
春ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
春レタス	腐敗病	発生量：多い	2月下旬現在、平年より多い発生である。凍霜害による傷口から病原菌が侵入し、発病する。高温・多湿条件が発生を助長するため、換気を十分に行う。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 3 月 1 日から 3 月 28 日)

気象庁 (2 月 27 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

< 1 週目の予報 > 3 月 1 日 (土曜日) から 3 月 7 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 2 週目の予報 > 3 月 8 日 (土曜日) から 3 月 14 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 3 月 15 日 (土曜日) から 3 月 28 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。